白門５０会 会報

第19号

2019年（平成31年）３月

発　行　中央大学学員会「白門５０会」支部
編　集　広報部会　外村幸雄（法・政治）　山下史雄（法・政治）
投稿/連絡
山下史雄　　E-mail:　grande8131pescad@kub.biglobe.ne.jp
※投稿は電子メールで。電子メールの写真は.jpegでお願いします。

既存の枠を超えるグローバル＆プロフェッショナル人材を育成

2025年に向けて、中央大学が大きく動こうとしています。本年4月には26年ぶりの新学部となる「国際経営学部」「国際情報学部」の2学部を開設し、グローバル化を加速します。多摩と都心にあるキャンパスの再編と整備も進められます。大胆な変革を支える理念のもと、中長期事業計画「Chuo Vision 2025」が推進されます。**（清野　強）**

中央大学の近況

◎建学時に蒔かれたグローバルという種

明治時代の幕開けに18人の若き法律家が創設した「英吉利法律学校」が中央大学（以下「本学」という。）の前身である。初代校長の増島六一郎は英国の法曹院で学び、法廷弁護士の資格を得て帰国。その後、母国で法律家を育てる一大事業に着手しました。本学の建学の精神は「實地應用ノ素ヲ養フ」です。応用力をもって法学を生かし、社会に貢献する人材の育成をミッションとしたのです。

世界で通用する実学をいち早く身につけた先見性。そして志を同じくする仲間と新しい時代を切り拓こうとした熱い思いと行動力。増島自身が国際弁護士の先駆けとして活躍し、海外事務所を設立したり、米国法曹界とも交流したグローバルかつプロフェッショナルな人材でした。そのスピリットは本学の原点であり、総合大学へと発展した現在に受け継がれています。

今進められている数々の改革は、この原点をさらに発展させ、世界に確固たる存在感を示すための布石となります。また、グローバル化にはダイバーシティ（多様性）の観点が必須であり、人種・宗教・性別の枠を超え、多様な人々が共生する人類社会を展望することに繋がります。

【中央大学の歩みとVision】

- 1885年　英吉利法律学校設立（現在の法学部・ロースクールのルーツ）
  校外生制度（通信教育課程）を他校に先駆けて設置
- 1905年　経済学科（のちの経済学部）開設
- 1909年　商業学科（のちの商学部）開設
- 1949年　新制大学として再スタート
  工学部（のちの理工学部）開設
- 1951年　文学部開設
- 1978年　駿河台から多摩キャンパスへ移転
- 1993年　総合政策学部開設
- 2013年　ハワイ大学マノア校に「中央大学パシフィック・オフィス」開設
- 2014年　タマサート大学（タイ）に「中央大学・タマサート大学コラボレーションセンター」開設
- 2016年　上海理工大学に「中央大学上海オフィス」開設
- 2019年　国際経営学部、国際情報学部開設
  清華大学との協力により「日中イノベーションセンター」設立（予定）
- 2020年　グローバル館・国際教育寮を多摩キャンパスに開設（予定）
- 2021年　学部共通棟を多摩キャンパスに開設（予定）
- 2023年　法学部を文京区に移転し、ロースクールとの連携を推進（予定）
- 2025年　創立140周年

4月に26年ぶり2学部開設

Chuo vision 2025
―世界に存在感のある大学へ―

◎中央大学が目指すこれからの人材育成

4年前の創立130周年にあたる2015年に構想された中長期事業計画「Chuo vision 2025」には、近未来に向けた大学のミッションと実現へのビジョンが示されています。

大学の最大の使命は、教育・研究・社会貢献を通じた人材育成にあります。これまで約57万人の卒業生を輩出し、現在では約2万8千人の学生が学ぶ中央大学が目指すのは、建学以来の実学教育の成果を踏まえ、多様な研究と幅広い実践教育によってグローバル＆プロフェッショナル人材を育成することです。

⇒２面に続く

⇒１面から続く

ユニバーシティメッセージの「行動する知性。」は、“物事を考え、理解し、自らの判断で行動に移していく力”を指し、実学教育はその習得に欠かせないものと位置付けられています。すなわち本学のミッションは、大学で身につけた知識や技能を“知性”に深化させて広く社会に貢献する人材を育て、グローバルな競争力が求められる世界へと送り出すことにあります。

そのための重要な柱がグローバル化のいっそうの進展です。2012 年からは文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」により、協定校や各種機関等との研究者交流、外国人留学生の受け入れや留学プログラムを拡充し、「グローバル・ジェネラリスト」「グローバル・リーダー」「グローバル・プロフェッショナル」の育成に注力してきました。卒業生や帰国した留学生で組織する学員会の「海外支部（白門会）」18 支部も、母校のグローバル化に貢献しています。

◎大胆な刷新によって新たな伝統を形成

今年度はさらなるグローバル人材育成の場として、多摩キャンパスに「国際経営学部」（入学定員 300 名）を開設し、海外留学生の受け入れを強化します。また、同時に市ヶ谷田町キャンパスには「国際情報学部」（入学定員 150 名）を開設。ボーダレスに進化する情報化社会にマッチした政策やサービスを展開できる人材育成を目指します。

それに伴い、キャンパスの再編と整備も進めます。緑豊かな郊外型の多摩キャンパスは、日本人学生と留学生が相互に交流できる環境を高めたグローバルキャンパスとして整備します。一方、都心キャンパスでは、ロースクールやビジネススクールとの近接により一貫した高度専門職育成や高水準の実学教育を推進。理工学部との連携による文理融合・学際的な教育研究を展開します。都心の立地を生かし、多彩な人々が集い、学び合う効果が期待されます

また、既存学部でもカリキュラムや教育内容をグローバル対応とし、「実学の中央」ならではのグローバル＆プロフェッショナル人材を育成します。

「行動する知性。」を備えた人材こそが、本学の存在感の源であります。

■ 進むキャンパス整備 ＜二大キャンパス体制の形成＞

多摩キャンパスと都心キャンパスのそれぞれの魅力を明確化させ、多摩キャンパスは緑豊かで施設設備の整ったグローバルキャンパスを目指し、都心キャンパスは後楽園キャンパスを中心として先進的な教育研究とプロフェッショナル養成に注力したキャンパスを目指します。

□ 多摩キャンパス

グローバル館（仮称）・国際教育寮（仮称）＜2020 年 4 月共用開始予定＞と

学部共通棟（仮称）＜2021 年 4 月供用開始予定＞の建設を予定。

○グローバル館（仮称）・国際教育寮（仮称）

2020 年 4 月供用開始予定（新築）

グローバル化を推進するうえで、より多くの外国人留学生や研究者を受け入れるために必要な教育内容の提供とともに、生活面でのサポート体制として、キャンパス内に国際系施設『グローバル館（仮称）・国際教育寮（仮称）』の建設に着工しました。グローバルな教育研究が可能となる施設設備を整えたグローバル館（仮称）とオンキャンパスで教育と生活が融合する国際教育寮にて、在学生と留学生が教育や生活を通じて、互いの文化や習慣などを学び、理解し、国際通用性を身に付けられる教育施設となります。

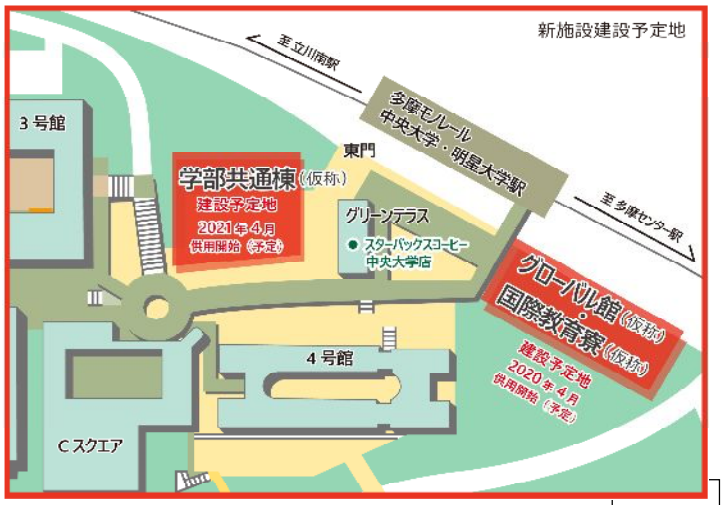
○学部共通棟（仮称）

2021 年 4 月供用開始予定（新築）

従来の 1 学部 1 棟の利用ではなく、学部横断的な教育研究施設として、『学部共通棟（仮称）』を来年度に

⇒３面に続く

多摩キャンパス（東京都八王子市）＝中央大学広報室提供



多摩キャンパス新施設建設予定地＝中央大学広報室提供

グローバル館（仮称）・国際教育寮（仮称）外観イメージ＝中央大学広報室提供

⇒２面から続く
建設の着工を予定しています。多摩の豊かな自然を生かした「森のキャンパス」の入口として、また、ダイバーシティ・グローバルゾーンの中核となる施設として位置付けます。これにより、在学生のラーニング拠点・交流拠点として、また、あらゆる『知』が集合・発信される空間として、今までにない多摩キャンパスの新たな教育施設となります。

□ 都心キャンパス

2019 年 4 月、国際情報学部（入学定員 150 名）を開設することに伴い、市ヶ谷田町キャンパスを改修。

後楽園キャンパスの整備、法学部の 2023 年度都心移転計画（茗荷谷の新キャンパス）の具体化が進行します。

市ヶ谷田町キャンパス（東京都新宿区）＝中央大学広報室提供

○市ヶ谷田町キャンパス

2019 年 4 月供用開始

2019 年 4 月、国際情報学部（入学定員 150 名）を市ヶ谷田町キャンパスにて開設します。「情報の仕組み」と「情報の法学」が融合する学術交流を発展させ、さらに産官学へと接続し、情報の未来を描き語り合う拠点となるよう、多様な学びの場の提供を行い、IT・IOT の積極的な導入による利便性の向上を図るなどの整備を行います。これにより、「Link」を生み出すビルディング型スマートキャンパスとして生まれ変わります。

○法学部の都心移転計画

2023 年度からの移転計画の具体化が進行

昨年 12 月、文京区大塚一丁目の都有地（東京都交通局所有）の定期借地権（建物に賃借人として文京区＝保育所、地域コミュニティ施設、自転車駐車場＝及び郵便局を入居させることを条件）の借地人の公募に参加し、本学が落札（借地人予定者として決定）できました。今後、本年 3 月に予定される事業用定期借地権設定の本契約を経て、関係機関と調整の上、2023 年度からの移転に向けて準備を進めることになります。

新キャンパス予定地は地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅のすぐそばで、一駅離れた後楽園キャンパスと有機的な連携を図ることを今後検討することになります。

法学部の都心移転計画の具体化に向け、今後ロースクールとの連携を推進することになります。

【注記】中央大学に関する記載内容については、中央大学ＨＰ、新聞広告及び学員会発行の学員時報等の記事を参考に掲載しました。

「防災士」ボランティア活動

黒須　敏文

1　防災士制度のできた背景

平成 7 年 1 月 17 日に阪神淡路大震災があり、死者 6,434 人のうち、8 割以上が木造住宅の倒壊による圧死、窒息死だった。特に救助が必要だった 3 万 5 千人の実に約 8 割が近所の人たちにより救出された。

日本防災士機構は、平成 15 年 10 月に防災士認証制度（民間資格）をスタートさせた。平成 30 年 12 月末現在で全国に 161,650 人の防災士が誕生している。日本防災士機構の講習、試験に合格し、消防署等の普通救急講習を受講して申請すると、防災士に認証される。

わたしは、消防官定年後、平成 20 年 7 月に消防特例扱いで試験無く、申請だけで防災士に認証された。

ＮＰＯ法人栃木県防災士会の理事として、2,700 人の防災士仲間と共に手を携えて地域の防災イベント等でボランティア活動している。

2　防災士の活動

災害被害の軽減は自助・共助・公助の連携で実現されるといわれている。

自助：とっさに自分の命は自分で守る。共助：近隣の人たちと協力して対応する。公助：行政の対応（即応できず遅れる行政の限界）

防災士は、災害発生時に、自助・共助の場面で活動するが、普段は、防災意識の啓蒙、防災訓練の指導など地域防災力の高揚に努めている。

新聞紙で作ったスリッパ。いざという時に便利だ

新聞スリッパの作り方

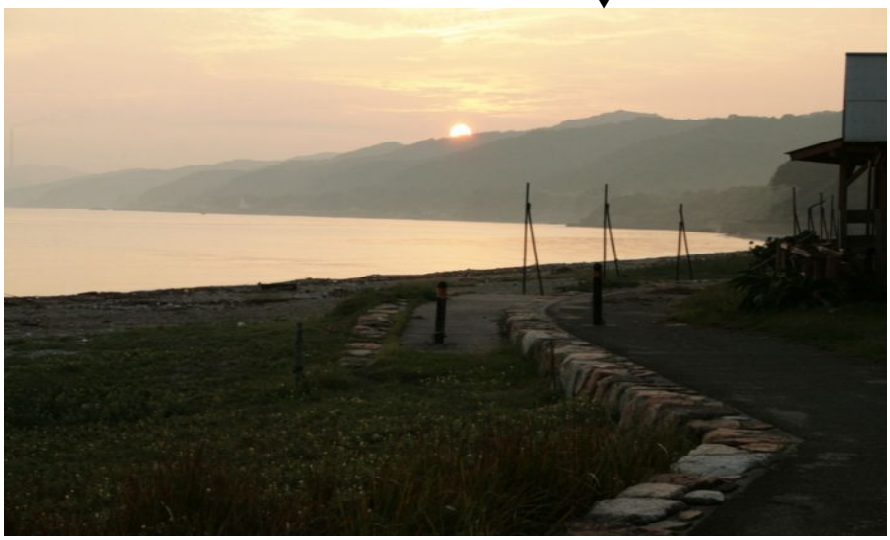
①新聞紙２枚を縦に４ページ（日刊紙縦長）に重ねる。
②新聞紙を四分の一に谷折し、裏返しする。
③裏返しした新聞紙を三分の一の谷折を両端から折り、片方を差し込む。
④差し込んだ新聞紙を裏返して、手で足を入れる袋部分を開く。（底をテープでとめておくと、履いていて壊れない。）
⑤足を新聞スリッパに入れて履くと、片足分が出来上がる。
⑥同じ要領でもう片足分作ると新聞スリッパ一足の出来上がり。
※こどもスリッパは、新聞紙１枚を四分の一折（縦４ページ）から上記②以降の手順で作ること。

日本列島　自転車ひとり旅　その３

平成 30 年 9 月 13 日～26 日（再び九州へ）

このところ毎年、春と秋に自転車旅行に出かけています。昨秋は九州の旅でした。新門司港からそのまま東海岸を南下して宮崎まで行きました。その旅行記です。　**（渡辺　健司）**

奈田キャンプ場からの夕日



9/13（木）　自宅白岡→東京湾有明埠頭フェリーターミナル

朝おそく 10 時に出発し、16 時半に有明埠頭に着く。19 時半出港。

9/14（金）　オーシャン東九フェリー・船内（東京→九州　32 時間）

9/15（土）　新門司港→中津市・鍋島公園

朝 5 時半にフェリーを降りると雨。やんでいる時に走り、降ってくると雨宿りを繰り返す。あまり気持ち良くないが、天気だけはしかたがない。昼食はラーメン。九州のラーメンはほとんどどこでも、とんこつ味。おいしい。午後には雨が上がり、ちょうど良いところに公園があるのでそこでキャンプ。隣がサッカー場でアジア系の若者 10 数人がサッカーをしている。福岡県の東海岸は工場が多いので、こういう外国人が多い様子。

9/16（日）　中津市→国見市・ふるさと自然公園キャンプ場

8 時半出発。宇佐市の駅舘川の橋の上で釣りをしている人がいる。ハゼがよく釣れる。ここ宇佐はローマ字でＵＳＡと書く。おもしろい。豊後高田市のスーパーで昼食の買い物をする。太い海鮮のり巻き、大きいアジフライ、くしに刺したふっくらしたタコ焼き、しめて 400 円少々。おいしいものが安い。その後、国東半島に入り、道は海沿いのアップダウンが続く。暑いし疲れてきた頃、キャンプ場に着く。姫島というやや大きな島がきれいに見える小さな半島の突端にあるキャンプ場で、とても良い景色。シーズンオフで管理人がいない。泊まりは私一人。水、トイレ、シャワーが使える。ただしシャワーは冷水。しかし快適。

9/17（月）　国見市→杵築（きつき）市・奈多キャンプ場

9 時半出発。やはり本日もアップダウン多し。景色良し。奈多キャンプ場泊。このキャンプ場も管理人がいなく、私一人だけのキャンプ。砂浜にテントを張る。大分空港発着の旅客機が良く見える。四国も見える。

別府市を望む「うみたまご」という海浜公園

9/18（火）　杵築市→大分市・神岬キャンプ場

8 時出発。走り始めて別府市に入るとヤシの並木があり観光客（外人など）が多い。別府市を抜け大分市に入ると海辺の工業地帯になる。工場群を過ぎた海辺にキャンプ場がある。芝地にテントを張る。隣の炊事場と大テーブルでは 10 人ほどが集まってバーベキューをしている。はきはきした気持ちの良い若者たちで、聞くと大分高専の 5 年生。高専の土木科最後の夏の終わりで何かの打ち上げらしい。2 人女の子が混じっている。「ドボジョだね。」と言うと「はいそうです。」と返してきた。

9/19（水）　大分市→津久見市・冠海水浴場

8 時半出発。午後、小高い丘の上の芝地で老人が 4 人、海を見ながらくつろいでいる。今日宿泊予定のキャンプ地の場所を尋ねると、会話が始まる。自分たちも 60 歳代の頃は女房と車で国内いろいろなところを

⇒５面に続く

美味しい食べ物 出会いも多く

⇒４面から続く

回ったもんだと。なんだかいい感じ。夕方に着いたキャンプ地は何にもない。暗くさびれた入り江の海水浴場で、まったく誰もいない。使えないシャワーが 3 本があるだけ。水もなし、トイレもなし。夕食後、浜辺でたき火をする。乾いた流木があちこちにあってそれを燃す。暗い中でたき火と沖の突端の明かりを見ながら、しばらくぼんやりする。こういうのも悪くないと思う。テントに戻りシュラフの中でラジオを聴いてびっくり。明日は一日中雨とのこと。

9/20（木）　津久見市・冠海水浴場→津久見市・ホテルかねまん

天気予報は当たる。暗い曇り空の下で早々にテントをたたみ出発準備をしていると、にわかに雨。すぐに本降りになる。フライシートをバッグ、自転車、自分に掛けしばらく雨をしのぐ。小降りになって、8 時出発。海岸端の屋根のあるところで雨上がりを待つが、午後になってもその雨はあがらない。少々寒い。本日は宿どまりとする。宿で洗濯をして、テレビで相撲を見ながらビールと豚カツで満足。冷水シャワーばかりだったので、熱い風呂もうれしい。宿のおばさんも感じが良い。

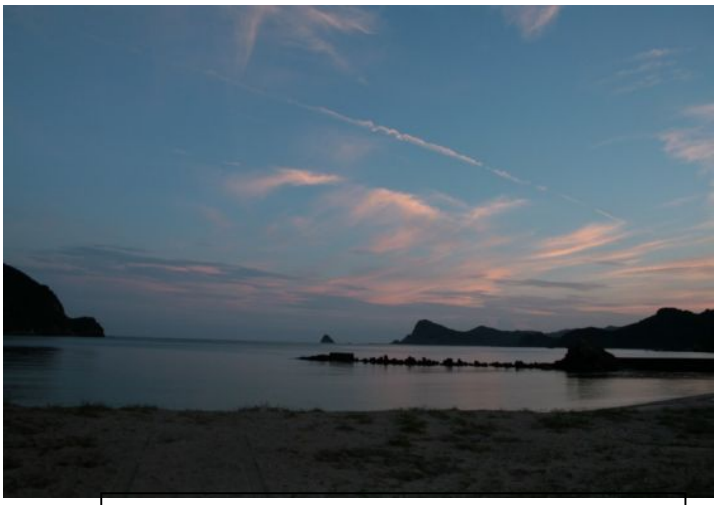
9/21（金）　津久見市→佐伯市・田宮さん宅

9 時出発。雨上がりの道を行く。この辺は、ずっとリアス式海岸が続く。上り坂、トンネル、下り坂、入江、のサイクルを何回か繰り返す。人の少ない漁村の風景。入江をのぞくと縞模様の魚や半透明のクラゲが気持ち良さげに泳いでいる。水の透明度が高いのできれいに見える。自転車で同じ方向をしばらく一緒に走っていた男性が私に泊まっていかないかという。それは丁寧に断って、私はのんびりと漁村の人と話したりして走っていると、途中で彼が彼の家の近くで待っている。また泊まっていかないかという。泊めてもらうことにする。彼は独身で 2 年前に同居していたお母さんを亡くしたとのこと。昭和 28 年生まれ。夕食、風呂、寝床をいただき恐縮する。いろいろな話をして意外と楽しい一夜。

熊野江海水浴場

9/22（土）　佐伯市→延岡市・熊野江海水浴場

7 時前に出発。上り坂、トンネル、下り坂、入江のサイクルを 2 回繰り返して、最後の峠越えがきつい。峠を下ると日豊海岸。きれいな入り江で、さらに行くと下阿蘇海岸のビーチリゾートに出る。残念ながらキャンプは不可。その先の熊野江に泊まる。



熊野江海水浴場の夕暮れ

9/23（日）　延岡市→門川（かどがわ）市・海浜公園

9 時半出発。旭化成の町、延岡を過ぎ門川町に入って少し行くと海辺にきれいな広い公園がある。運動場、野球場、芝地があり海に突き出た良いところ。ダメモトと思い、管理人に聞くと、隅の方ならテントを張ってもいいという。ラッキー。近くのスーパーで買い物をしてゆっくり夕食。ラジオで、白鵬の優勝を知る。本日は大相撲秋場所千秋楽。

9/24（月）　門川市→川南（かわみなみ）町・伊倉浜自然公園

8 時半出発。この辺はほぼ平たんな道で走りやすい。しばらく行くと、道の駅日向でなにかイベントをやっている。汁物が一杯 100 円でおにぎりが無料。汁を 2 杯とおにぎり 2 個を食す。うまい。同じテーブルにちょっと地元の人には見えない感じのいい女性が一人でいる。話してみると、サーフィンに来ているという。ここ日向の海は波が良くて、地元の人も親切で、食べ物もおいしいとのこと。彼女は四国の徳島で看護師をしていて、ここには良く来るらしい。ちょっと美人で、歳は 20 代後半、30 代前半ぐらいか。私の自転車旅行にも興味がありそう。しばらく話をして出発。こういう会話は特に楽しい。

走っていると雨が降ってくる。海沿いの公園があり、ここもサーフィンができるところ。建物の軒下にテントを張る。

9/25（火）　川南町→宮崎市・東横イン

波の音が大きく、湿気も多いので寝苦しい夜だった。朝起きると、海に近い東屋にテントを張っている若者がギターを弾いている。行ってみると彼は東京八王子からスーパーカブで来て、日本 1 周をしているという。彼が出発する時あいさつに来る。私が名刺を渡すとそ

⇒６面下に続く

60代の青春グラフティ

「黒部峡谷欅平」に集合した５０会のメンバー

トロッコ電車で行く紅葉の秘境　黒部峡谷

50会　宇奈月の旅

本多　俊彦

10月28・29日

どんよりした鉛色の日本海を背景にした黒部・宇奈月の駅から、富山地方鉄道の新黒部駅に乗り換える。畑の中を走っているような感じで、適度な間隔で畦道のようなプラットホームの駅がある。

宇奈月温泉は山あいの静かな温泉街で、建物や看板にレトロな雰囲気が漂う。ギラギラした歓楽街を予想していただけに少し拍子抜けする。湯快リゾートを標榜するのが今宵の宿　宇奈月グランドホテルだ。

新黒部駅で顔を揃えた８人の50会の選抜メンバー（本当に選抜されたかどうかは定かではない）は、ホテルにとどまる何人かを除いて、早速、温泉街へ繰り出す。

宇奈月温泉駅の隣には黒部峡谷鉄道の宇奈月駅があり、その先の展望台からみえる峡谷にかかる赤い橋が印象的だ。遊歩道が整備されていて、鉄橋（新山彦橋）の下に歩道専用の橋（山彦橋）が架かっている。ここからの鉄橋の眺めは素晴らしく、通過するトロッコ電車が旅情を誘う。

夕食はバイキング。酒と肴と唄が大好きな選抜メンバーにとっては、これからが本番。それにしてもよく食べ、よく飲む。三つ子でも孕んでいるような大きなお腹の理由がよくわかる……気がする。あまり食べ過ぎても眠くなるので、カラオケルームに移動する。

演歌あり、ムード歌謡あり、ポップスありと大いに盛り上がるが、採点機付きなので、皆、少し緊張気味。しかし、出席さえすれば「優」をくれるやさしい教授のような採点機で、全員80点以上の好成績。髪の毛が白かったり、無かったり、外見上は前後10歳くらいの幅があるような気がするが、歌の選択をみていると、やはり同じ時代を過ごしてきたんだと妙に感心する。

翌日（29日）は黒部峡谷鉄道の「宇奈月」駅から終点の「欅平」までの約20㎞のトロッコ電車の旅。案内のアナウンスは富山出身の女優　室井滋（ただし声のみ）。小雨模様だったが、時折、ガスのきれた合間にみえる紅葉はハッとするほど美しい。途中、日本猿の集団と遭遇。一匹がじっとこちらをみつめる。どうやら、選抜メンバーの誰かを仲間と間違えたらしい。

欅平からは祖母谷温泉までさらに散策コースがあり、その先は剣岳、立山、白馬など北アルプスの名峰に通じている。山をはじめて40年になるが、欅平は初めてで、衰えないうちに一度このコースから、チャレンジしてみたいと思う。

名剣温泉まで足をのばし、昼食会場の欅平駅のレストランまで引き返す。帰りのトロッコ電車まで時間があったので、酒を頼んで小宴会。それにしても皆酒が大好きだ。おかげで帰りのトロッコ電車はほとんどが眠狂四朗。よだれをたらしていぎたなく眠っている姿をあの日本猿に見られてしまっただろうか・・・

宇奈月で富山地方鉄道に乗り換える。小雨があがり、空には大きな虹がかかっていて、車内に歓声が上がる。見たこともないような大きな虹だ。酔いも手伝って、思わず「われわれ（選抜メンバー）は幸福（虹）の配達人」とつぶやくと車内の若い女性に「そのフレーズ、素敵」といわれ、にやけてしまう。しかし、本当にいいことがありそうだ。

小雨模様で、青空に映える紅葉とはいかなかったが、霧の中、幻想的な情景が楽しめた。酒と歌とトロッコ電車と、最後は虹に彩られて、60代半ばを過ぎた昔の青年たちの二日間の旅は終わった。

⇒５面から続く

れを見て、彼の姉もアマチュアオーケストラでやっていて、チェロを弾いているとのこと。ぐっと親近感がわいてさらに話をしたかったが、彼の無事を祈って出発を見送る。私は８時半出発。高速道路のような有料道路についている歩道を走る。シーガイアというリゾートの脇を通る。快適。ちなみにその時の自転車の料金は10円。宮崎市内に入り、空港に向かう。明日でこの旅行も終わり。翌日の飛行機の予約をする。65歳以上で３割引き。ずいぶん得した感じ。ビジネスホテル泊。荷物は宅急便で送る。

9/26　宮崎市→自宅白岡

７時半出発。ホテルから宮崎空港まで最後の６ｋｍを空荷で走る。少々なごり惜しい。空港で自転車を分解し、袋に詰める。飛行機に乗ると、あっという間に羽田に着く。旅情がないのがちょっと淋しい。

故郷の思い出

山口県下関市彦島

私の故郷は山口県下関市です。下関市の西、彦島というところで生まれ18歳まで過ごしました。彦島と言っても下関駅からバスで15分程度、短い橋で渡れます。国鉄が難工事の末完成させた関門トンネルは、この彦島から海底に入っています。

宮本武蔵、佐々木小次郎の決闘で知られる巌流島はこの彦島の東側に浮かぶ島です。正式名称は船島と言います。現在は唐戸港から渡し船が運行され、観光客で賑わっているそうです。彦島も平家物語、平氏の最後の地として知られています。関門海峡壇之浦は源平合戦、安徳天皇入水の場としても知られています。壇之浦には多くの源平の霊が漂っています。

その彦島で小学、中学、高校と過ごしました。小学校は西山小学校、1学年6クラスでした。1年、2年と同じ仲間で、3年、4年も同じ仲間、2年に一度クラス替えがありました。5年、6年になり、中学からクラブ活動への誘いが来ます。私は友人に誘われるままバレー部に通うようになりました。その頃東洋の魔女の影響で、バレーは大変な人気でした。顧問の大村先生、回転レシーブやらダイビングレシーブ、カッティングサーブと、ずいぶん鍛えていただきました。土日登校は当たり前、朝から晩までバレー漬けでした。教師の働き方改革などなんのその、奥さんのいない教師の遊び道具にされたのかもしれません。とは言え、常に下関では優勝候補となり、県大会にも毎回出場する成績を残していました。その名も玄洋中学と申します。彦島には彦島中学校と2校だけでした。あの頃彦島の人口は5万人くらいでした。今では3万人になってしまったようです。東洋高圧と三井金属の企業城下町で、合理化されて人も減ったのでしょう。下関側には造船所、大洋漁業の遠洋漁業基地などがあり、漁師たちで賑わった時期もありました。マルハ大洋は下関に本社がありました。ホエールズも下関で生まれました。そんなわけで、私は生まれたときから大洋ホエールズファンです。川崎、横浜と本拠地を変え、横浜ベイスターズ、横浜DeNAベイスターズと名前を変えてもずっとファンです。たった2回しか優勝してない球団ですが、いつも楽しみに応援しています。アンチ巨人、アンチ自民党、とにかく強いもの、大きいものが嫌いなのは弱い大洋ホエールズを応援し続けているせいかもしれませんね。

高校は下関市立下関第一高等学校です。かの松田優作が一年先輩でした。彼は、入学はしたものの、すぐにアメリカに留学し、帰国後は東京に居座り卒業はしませんでした。

この高校は1学年7組あり、1組から3組までが男子、4組から7組までが女子と変則な共学性をとっていました。校舎ワンフロアーに1学年が並んでおり、4組と5組の間に職員室やら音楽室やらを配置し、完全に男女を分断し、容易に交流できないようにしていて、なんだか不思議な高校です。そのせいでしょうか、高校時代には浮いた話は一度もありません。中学時代にバレーに夢中になり、高校ではクラブ活動はしませんでした。ひたすら帰宅部に徹しました。ただ、2年の時に県の駅伝大会に出たいのだが、メンバーが足りないと誘いがかかり、にわか陸上部駅伝選手になりました。いきなり5キロ最終区アンカーを走れと言われ走りました。結果は新聞発表され、27校中27位でした。弁解のようですが、私にタスキが届いたときには、もう前の選手は遠く見えないところに行ってしまっていました。折り返しで同時スタートさせられた白襷なのにです。無謀なエントリーでした。高校時代の恥ずかしい思い出はこれともう一つ、生徒会長候補の応援演説をしたことかな。橋本君にはほんと申し訳ないことをしました。全校生徒を前にして壇上で、緊張の極限、何もしゃべれなかった。応援どころじゃなく、赤っ恥をかいてしまった。自分のせいで落選させたと未だに悔いております。もしも、あの時に戻れるなら、少しはましな応援演説ができるだろうに。

2004年に中高一貫校となり、山口県立中等教育学校と名称も変わりました。帰省しても訪れることもありません。東京に出てきた同窓生と、新宿あたりで飲むくらいが、懐かしむひとときというところです。

ちょっと故郷を思い出したくて書いてみました。博多にいる大学時代の友人が「お前の生まれた彦島と北九州がトンネルで繋がるらしいぞ」という電話をもらったからです。

関門海峡にまたトンネルができるのか。トンネルがなくても、小さい時から観ていたテレビは、RKB毎日、九州朝日放送と九州からの電波が届いていました。本州の西の果て下関出身だと言うと、あっ九州ですね、といまだに言われています。

ふくの街下関にどうぞおいでませ！　**（山井　俊昭）**

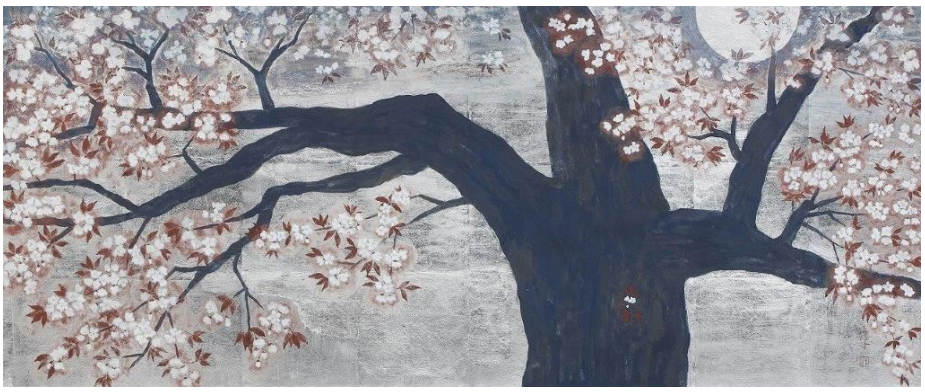
わたしの近況

清田　乃リ子（旧姓　八尋）　法・法　銀行勤務を経て、弁護士35年となりました。市民団体の推薦を得て、4月、地元佐倉の市長選に立候補します。（千葉県佐倉市）

山井　俊昭　法・法　今年12月で民生委員の1期目が終了します。担当する横浜市栄区本郷中央地区には32名の民生委員がおりますが、75歳定年となり次期退任される方が9人もいます。3年ごとに大量欠員が出ますので、最低3期は務めてくれと言われています。あと2期務めると私も74歳です。十分に見守っていただかなくてはならない側になってしまいます。老いは誰にでも平等にやってきます。85歳を超えると5人に1人は認知症になると言われています。認知症になる前の準備について、セミナーでしゃべりたいと思っています。（横浜市）

塩谷　治史　法・法　2月9日の東京都武術太極拳交流会大会に昨秋まで居住していた日野市の太極拳連盟の一人として参加した。日頃の教室の練習成果を発表する場であり、終了後仲間と昼食を楽しんだ。（東京都北区）

多摩の自然に魅せられ



出展された「山桜」（左）と、作品を紹介する尾崎さん（下）＝新宿・小田急百貨店で

尾崎 淳子さんが日本画個展

法学部
法律学科出身

日本画と版画でさまざまな展覧会に作品を発表してきた尾崎淳子さんが昨年６月 13～19 日、東京・新宿の小田急百貨店で個展を開いた。尾崎さんは本学法学部法律学科卒業の 50 会同期で、現在、日本版画協会会員、日本美術家連盟会員。これまでも多くの個展を開くなど異色の経歴を持つ尾崎さんの個展「― 野の光 ―　尾崎淳子　日本画展」の会場を訪ねた。

満月に浮かぶ満開の山桜、山ゆりの咲いた草むらや葦が風になびく。会場に足を踏み入れたとたん、淡く幻想的な作品の世界が広がる。その数約 30 点。絵といえば題材を探してあちこち旅する作家の姿を思い浮べていたが、尾崎さんの絵の題材は多摩丘陵の自宅周辺にある。東京とは思えないほどの豊かな自然に魅せられ、創作のために農家に頼みこんで家を貸してもらい、公務員の夫とともに移り住んだと語る。

創作歴は 1980 年にさかのぼる。出身地・札幌の中高一貫校在学中から絵に関心を持ち、美大への進学を希望するも親御さんの意見に従い本学を選んだ。したがって絵は独学。「もともと文学少女だった」ことから、20 歳代後半に絵本「ゆきだるまのふしぎなたび」を岩崎書店から持ち込みで出版した。しかし「絵本は子どもに受けないといけない」という制約もあって「自分が描きたい絵が描きたい」気持ちが募る。

画家・版画家のオディロン・ルドンの石版画（リトグラフ）の作品に感銘を受け、まずカルチャーセンターで版画を学び、そこから作品を発表した。日本版画協会に 20 年にわたり出品。毎日現代美術展等に出品。札幌国際現代版画ビエンナーレ展受賞。

同時に桃山時代後期から近代へと続く「琳派」と日本画へ実は秘かな憧れを持ち続けた。

ところが「日本画はまず材料の膠（にかわ）を毎朝煮ることから始まる」大変な作業。自分には無理と思い込んでいたが、ある時「金箔を貼る 3 日間だけの講習」に参加する機会を得、目の当たりにした現場の講師や学生たちは、膠の代わりにすぐに使える溶剤を使い、工程は簡略化され、描き方も自由であった。自分なりに描いてみたところ「あら出来るじゃない」。

それを起点に制作は徐々に版画から日本画へ移行。それでも題材は今も多摩の身近な自然の中にある。そこに少女時代を札幌で過ごした「原風景」ともいえる馬やリンゴの花が加わるなどしながら独自の風合いを醸し出している。

借りていた農家を出て現地に家も設けた。「結婚するまで絵を描く女性とは知らなかった」という夫君の理解にも恵まれ、今も多摩の自然の中でスケッチし、自宅アトリエで制作を続ける。

その豊かな土地で最近「農家が育てたフキノトウやタケノコがごっそり持ち去られたりするんです」と心を痛める。画家としての自分を育んでくれた土地だけに憤りもひとしおだろう。

「これからはもう、あんまり頑張りたくないわ」「しばらく休みたい」今後の抱負をたずねた際に返ってきた答えだが、すぐに続けて「俳句は続けたい」句歴は 20 年近く、絵は自分ひとりだけで行う作業だが、俳句はみなで同じ空間と時間を共有できるところがとても楽しいと言う。「馬にも乗りたい」。

物静かな語り口の中で、まだまだ夢は野を駆け巡っているかのように感じられた。

尾崎淳子さんのホームページの URL は以下の通り
Junko-ozaki.com

（山下 史雄）